

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100212		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム 大河		
所在地	宮崎市古城町長田5911番地		
自己評価作成日	平成22年9月17日	評価結果市町村受理日	平成22年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、入居者様が、毎日を楽しく穏やかに生活していただけることは、私達の務めであり、喜びです。
 2、ホームは里地里山に囲まれた、自然豊かな所にあります。
 3、畑は四季の花を絶えず、無農薬野菜が毎日の食卓に上がります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮崎市の郊外で、近隣には農家や民家が点在し田園風景が眺められる静かで自然環境に恵まれた場所にホームは立地している。ホームの畑では季節の花が咲き乱れ、無農薬野菜が毎日の食卓にあがっている。運営者は、地域との関係性強化を目指して、避難訓練に地域住民の協力や保育園児とのふれあい等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。また、人材育成に力を入れ、法人内・外の研修に職員を積極的に参加させ、資格取得に挑戦する等、能力向上を支援している。職員間のチームワークが良好で、利用者本位の質の高いケアが実践されている。利用者は職員の温かいケアに支えられ、表情が明るく元気に暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日3回の勤務交代毎に理念を読みあげ、心に刻んだ後、業務に就いている。入居者様が心穏やかな日々を送られるよう、接遇や技術の向上を図っていく。	運営者を含め、全員で作り上げた理念を毎日のミーティングや職員会議で確認し、共有して実践の中に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの花壇や畑を介しての近所の方の立寄り、古城保育所との交流、古城小学校児童の登下校時のあいさつや見送り、医療機関係列のグループホームとも毎月交流している。	地域の自治会に加入し、地域の祭りへの参加や保育園児との交流、中学生の福祉体験の受け入れ、近隣の人々との会話等、地域住民の一員として積極的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームが中学校の福祉体験や県看護師会の研修の場となっている。また、今まで研修や実践を通じて積み上げてきた認知症の方への理解や接し方について、地域の老人クラブ等に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日常の状況、ホームの行事内容、自己・外部評価の結果を報告し、家族や委員の意見をいただいている。会議における意見や苦情は「教科書です」と冒頭お願いをし、遠慮ない発言を促し、意見等を尊重してサービスに反映している。	運営推進会議は市の職員や地域の代表者等が参加して、2か月に1回開催している。会議では自己評価、外部評価等の報告や食中毒の予防等について話し合いを行い、そこでの意見を運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が行う研修には積極的に参加し、介護保険の動向、市の方針を踏まえホームの実情と照らして、意見の交換や協力関係の構築に努めている。	市の担当者とは、日ごろから運営状況の報告や介護保険の手続き等の相談を気軽にできる関係を築いている。市が主催する研修会にも積極的に参加して交流を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて何度も研修を行っており、フィジカルロック・ドラッグロック・スピーチロックが与えるダメージを理解し、どんな事があっても決して行わないと決めている。また、玄関や門扉は7:00～19:00は施錠していない。	見守りを重視した取組で、日中は玄関や居室には鍵をかけていない。職員は研修や勉強会に参加して、身体拘束のへい害を学び十分理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で高齢者虐待防止法等について皆で学び、ホームで虐待防止に全員で取り組んでいる。家族会でも虐待について話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議内で学び、個々について考えると共に、ご家族の皆様にも家族会で後見制度の内容を説明し、家族の立場からも活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をもって読んでいただき質問を受け、不安・疑問等のないように十分に説明している。改定は家族会に諮り同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が目につき易い場所に、意見や要望を寄せる為の意見箱を置くと共に、民生委員、区長等の電話番号を掲示している。家族会、運営推進会議でも発言を促し、意見は運営に活かしている。意見要望は個人的なものはケアプランに生かし、全体的なものは職員会議等で全職員に知らせている。	運営推進会議と家族会を合同で開き、外部の人に意見や苦情を表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。また、意見箱の設置や区長、民生委員の電話番号を掲示して、意見や苦情を引き出す努力をしている。	年に数回でも家族だけの会を開いて、家族同士の話し合いの中から率直な意見や不満等を引き出す工夫を検討してほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には改善への提案を常時募り、良いアイデアは積極的に採用し、表彰することもある。職員の意見には真摯に耳を傾け、職員のモチベーションを高め、結果的にホームの進化を図っていく。	運営者も参加して、毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。会議では多くの意見や提案が出され、優れたアイデアは積極的に採用し、表彰している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一定水準を平均点とし、減点するのではなく、個々の努力や実績に応じて加算する方法で処遇している。各自がキャリアアップを志向し代表者も手当で努力に報いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経歴や実績に応じて、各種研修に積極的に参加させている。経験豊かな管理者によるOJTも機会をとらえて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当時から、医療機関系列のグループホームと毎月交流している。長所は積極的に採り入れ、常に質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心の不安を解消するため、他の入居者様との良好な関係の構築や、生活のリズムを大切に接している。嗜好品等の本人の要望を聞きとり、安心して生活できるようサポートしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に重要事項説明書に基づき、詳細に協議している。家族の不安や要望には懇切、丁寧に対応し、家族との良好な関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の個々の身体や精神の状況を把握し、本人、家族と協議の上、通院や訪問マッサージ等他のサービス利用を含めた介護計画を立て、適宜見直しを行いサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を見極め、能力の活用を図り、生がいや達成感をもっていただくようサポートしている。職員や入居者様間の、仲間意識の醸成にも努め、助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も支援者の1人と考え、情報を共有し、一緒に入居者様を支えている。また、ご家族のこだわりも大事にしながら、良い関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昼夜を問わず面会は自由である。家族や友人が帰られる際は、次回も気持ち良く訪問していただけるよう、心配りをしている。行きたい所や、会いたい人の希望は家族に伝え、家族が出来ない時は職員で対応している。	なじみの知人や友人がいつでも自由に気軽に来訪してもらえるように、受け入れ体制を整えている。遠方の知人が来訪することがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	疑似家族としての、入居者様間の良好な関係の構築に努めている。相性を考慮しながらも、孤立されない様細心の注意を払い、ホーム内の融和を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際には、本人の状況、習慣、好きな物等詳しく伝え、移り住む事のダメージを最小限におさえている。また、退居された方の家族と交流があり、面会を希望されたら伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の個性、価値感、生活リズムを把握し、本人の思いを最優先に叶えるようにしている。意思表示ができない時、人に関しては表情等を読み取り、サポートしている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式)を一部取り入れ、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、家族からの情報も活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、病院等の入所前の施設から詳細な情報を収集し、習慣や価値感、健康状態等を把握し、職員全員で情報を共有し、介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は様々な視点にたち、入居者様の好む1日の流れ、接遇をチームとして考え把握に努めている。更に、喪失感を与えないよう配慮し出来る事や潜在力を探っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様毎に担当を決め、職員会議等において、各々のカンファレンスを行い、本人や家族の意見を汲んだケアプランを作成している。	モニタリングを毎月行い、本人、家族の要望や意向を取り入れている。また、利用者本位の介護計画を作成し、職員や関係者の気づきやアイデアも反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや、アイデアを個別日誌に書く際は文頭に目印を付し、職員が解りやすいようにし、個別カンファレンスで意見を出し合っ、介護計画の見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の急変時等における予備室での家族の宿泊、毎月の音楽療法の実施やホーム内花壇や畑での園芸療法も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームは自然豊かな里地に立地し、緑と触れあう散歩や、ホーム南側の古城川には魚の群れも観察できる。古城保育所、小学校との交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った、かかりつけ医に受診している。定期的あるいは急変時の往診も可能であり、連携は密にとれている。	これまでの掛かりつけ医を基本としており、協力病院とも急変時の対応等について協力関係が築かれている。希望に応じていつでも受診や気軽に相談、通院ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老人病棟の経験ある職場内看護師が、入居者様の健康状態を細かく観察し、介護職員にも適宜OJTを実施している。体調の変化に対応した24時間体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を入院当日に医療機関に渡し、入居者様のストレスや負担が軽減できる様努めている。入院中は、何度もお見舞いに伺い、ホームでできるリハビリ等を医療関係者へ伝え、早期退院できるよう積極的に支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを含めた終末期対応は、本人や家族と協議し、24時間体制の訪問看護や家政婦等の関係者に応援を得てサポートしている。当ホームで3人を看取った実績がある。	重度化した場合や終末期のあり方については、利用開始時に利用者や家族に説明し同意を得ている。訪問看護も活用し、関係者全員が方針を共有して支援している。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習も全職員が受講し、職場内看護師のアドバイスもあり、職員は実践力をつけている。AEDを設置し、初動体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災や地震等を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議にて近隣の方へ呼びかけ、協力体制が築けている。また、災害時に備え食料の備蓄をしている。入浴やトイレ用水は傍の川水を、飲料水は近所に湧水があり対処できる。	年2回、消防署や消防団、近隣の人々の協力を得て避難訓練を行っている。また、毎月夜間を想定した避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。災害時に備えた備蓄もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや態度には十分に気をつかい、尊厳やプライドを傷付けないよう努めている。特に排泄時は羞恥心に配慮し対応している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライドを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の配慮をしている。また、知り得た情報の守秘義務について十分理解し、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行うにしても、先ず入居者様の意思や希望をお聞きしてから援助を行っている。言葉では十分に意思表示の出来ない方には、表情等をよく観察し、希望や好みの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態や希望、ペースに沿って食事時間、起床・睡眠時間、お風呂や外出等を行っていただいている。毎日を楽しく穏やかに過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は、出張の業者に依頼したり、職員がカットや白髪染めを行ったり、希望を尊重してサポートしている。おしゃれは、その人のこだわりを大切に思いをかなえている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの献立を提供している。希望があれば、急に献立を変更することもある。また、調理は決まった入居者様に偏る事のない様、ローテーションを組み出来るだけ多くの入居者様が参加される様に努めている。	ホームの畑で採れた無農薬野菜を使って、利用者の好みに配慮したメニューを工夫している。利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じものを楽しく食べている。後片づけを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は医療機関の管理栄養士に相談し作成している。食事量・水分量はチェック表を作り、職員間で把握している。摂取量の少ない方は、好みの物をお出ししたり、回数をかけて摂っていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者様に毎食後の歯磨きを行っていたが、特に夕食後は磨き残しのない様介助している。また、週に1回はポリドント消毒を行っている。また、週に1回はポリドント消毒を行っている。訪問歯科医からの口腔ケアの指導も受け実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔、排泄量等を細かく記録し、本人のパターンやその日の体調を考慮して、トイレへの誘導や、自立への支援を絶えず行っている。	排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを細かく把握し、トイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にヨーグルトや牛乳の摂取を勧め、料理は植物繊維の多い物や、米に寒天を加える等工夫している。また、ホームの花畑や、里地の立地条件を活かし、屋外への散歩にも誘導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人の習慣や当日の心身の状況を考え柔軟に対応している。希望に応じて介助の職員が交代し、風呂場での会話を楽しんでいただいている。	入浴は2日に1回としているが、希望があれば毎日入浴できるように支援している。好みの時間帯やタイミングに合わせて柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動やレクリエーション、ナイトミールとしてホットミルク等の提供、不安や心配ごとのある方には近くに寄り添い話を傾聴して、心地よい眠りにつける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は文書で薬局からもらっており、薬効や副作用も理解している。服薬前後の体調も観察し、気になる点はホームの看護師や、薬剤師に相談し、引継ノートにも記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を把握し、得意な事や趣味を楽しむ、毎日潤いのある生活を送っていただけるよう努めている。また、ゲーム等を通して入居者様間の融和や、会話の機会を設けている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム大河

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を家族へお伝えし、ショッピングセンターへ行ったり、プロ野球のキャンプを観覧されている。これからも入居者様の思いや希望が叶えられる様、ご家族、ボランティアの協力を得ながら実現に努める。	家族やボランティアの協力を得て、ショッピングセンターに買い物に行ったり、プロ野球を観戦したりしている。花見も姉妹ホームと一緒に出かけることがある。	高齢化が進み車いすの利用者が多くなり、日常的な外出が厳しくなっているが、ホームは田園風景が広がる恵まれた環境の中に立地しているので、短時間でも日常的に散歩が出来ないか検討をしてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持ちたいと希望されたら、ご家族と話し合い所持されている。それ以外の方は事務所金庫に保管している。ご家族には出納帳を面会時に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申出があれば、ご家族や友人に電話できるようサポートしている。また、手紙の代筆を手伝ったり、ポストへの投函を行っており、人によっては週2通程の手紙が来る人もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やトイレは特に入念に掃除をしている。居室やホール等は、入居者様と一緒に片付けや、手作り品や花の飾り付けをしている。風通し、日当りは好条件の所に立地している。	共用の生活空間は採光、温室管理、換気等に配慮されており、リビングにはゆったりと過ごせるようにソファが置かれ、テーブルには花が飾られ、家庭的で居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室に面したウッドデッキからは、ホームの花壇や野菜畑があり、周囲は里地里山が広がり、美味しい空気のもとで会話が弾んでいる。独りの時間、触れあいの時は、その人の思いを大切に、ホーム全体の和やかな場の創出に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅におられた頃使っていた家具や仏壇等をご家族へお願いし持ってきていただいている。また、入居者様の描かれた油絵や貼り絵を廊下に飾っている。	居室には使い慣れたタンスやいす、テレビ、家族との写真、日用品等が持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内外はバリアフリーで、廊下に手すりも設置し、トイレや洗面所の場所も大きな字で掲示している。車椅子や杖での歩行も安全にできることから、職員は見守りを怠らず、可能な限り本人だけで行動していただくようにしている。		